

御担当医御侍史

突然書面にて失礼致します。東京女子医科大学病院関連医療機関、バイオセラクリニック院長の谷川と申します。この度、貴院ご加療中の患者様が当クリニック受診を希望されるにあたり、診療情報をご提供頂きたくお願い申し上げます。

当クリニックは東京女子医科大学病院・消化器外科の臨床研究グループ：癌免疫療法チームを母体として臨床試験対象外でも、治療を希望される方を対象に免疫細胞療法を提供できる施設として2001年に開設致しました。基本的には樹状細胞を用いたワクチン療法と活性化リンパ球療法を、さらに相乗効果を目的に局所／全身の温熱療法も行っています。

生体防御的観点では、がん細胞表面には遺伝子の突然変異のために生じたタンパク構造の変化があり、ウイルス感染細胞と同様に、主要組織適合性抗原上に免疫系から認識される癌抗原が存在することが多く、これに対して獲得免疫系が動き始めています。しかし、その抗原性が低いために、免疫細胞による癌細胞の排除が、十分にその増殖速度を上回ることができず、結果的にがん細胞は増殖し続けます。免疫細胞療法（+温熱療法）は本来の自分の免疫でがん細胞を排除する能力を上昇させることで、患者の生体防御を有利にさせることを目的としています。したがってがん細胞の増殖抑制を目的とする治療（化学療法）とは異なる視点からなっており、化学療法施行中であっても、その効果の増強という点で併用も望ましい方法と考えられます。

現在、私どもは再生医療新法に準拠して、特定細胞加工物製造業としての届出を受理された上で、樹状細胞を用いたワクチン療法と活性化自己リンパ球療法を中心に免疫細胞療法を行っています。また免疫細胞による抗原認識を高めることを目的に温熱療法の併用を行うこともあります。

どちらの治療においても単独での著しい腫瘍の縮小といった **benefit** を強く示すことができないものの、術後の無再発期間の延長、OS や PFS の延長などは学会等では多く報告され、尚且つ **risk** の少ない治療であることは確認されております。

この度、患者様からご相談を受けるにあたり、がん免疫細胞療法の限界、利点・不利点なども含めご説明をさせていただきますが、現行で標準治療が行われている場合であっても併用可能な場合も多く、その場合は自費診療として独立して担当させて頂きたく存じます。

誠に勝手ではございますが、これまでの治療経過、腫瘍マーカー、感染症を含めた血液データ、現状のがんの状態がわかる資料等、ご提供頂ければ幸いです。また、もし治療を希望された場合、さらに情報提供を求める事があるかもしれませんが、そのときには改めてお願いさせていただきます。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-6-12 MF 新宿ビル
医療法人社団バイオセラ会 バイオセラクリニック
院長 谷川 啓司